丹鶴叢書

風葉和歌集 自六至十

093.1
2006
佛教大学図書館
2005495344

風葉和歌集巻第六

冬

神無月のつごもりの日おくりけるわかれの
神のうつりにけるをしらでいとなむ人
乃の命　たゆたきのみちにかの女房
ゆきもとまらぬ人の神のうつりにけるを聞きて
たいしらず　あさくら乃皇后俗
いつもふるさとの神よ神無月ちりぬるもの
女のもとにわかれてまかりけるよつもり
のいまみの右大将

丹鳥文書

神主周しくはらをかゝ衣けさの袂をいとふしらまし（いそ一本）

まのうゝにこゝもみゝ侍るゝ海ちゝれのちゝ

るゝゝの宮きゝ見しのこゝゝゝゝ

ゝんかすみのたゝね

ゝゝと宮ゝ時ゝゝゝ世ゝゝゝ宮中あゝゝゝ

神主周つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ侍る

八重のゝみ侍るゝゝの積ゝゝゝゝゝゝゝ

さゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝ

総角

秋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右馬頭

同上

いつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝろかしこきやのさしの大臣
おもふこゝろもかよはすとてしるしをとる我なこゝろな
いとせちふまりふと俗るこゝろうちとりもとれし
こゝろには　うもとまのみれる
ちしれるおさ心やかよまるふん洞しくこゝ神のうくこのな
きこゝくよおそしほしるほさの虎の宮大后宮也
いなるこゝさにおそする法門ちるるよにそのに
こゝもしこゝるれハまゝ世法ハ人る
さこゝるものこゝこの御方

物語二上
百番哥合七十番
人しにおさこゝる神もこゝるこ時四天王よこゝる後方

武尸てのこゝさこゝにこゝもゝ俗るこゝるこゝ
こゝこゝ多法こゝせまゝ宮る
おの月のゝ五のかの御方
見ゝこゝ多へのやいるんさもあゝぬ神もの時見ゝ
山さゝにこゝる女のもゝ法ねるもこゝ法のゝ
しるあしこゝつこゝる
祢さめ乃尋ね

物語二
法こゝ見こゝ見ゝやゝ法のこゝれのおこゝいのゝ
出いしこゝす　なもの宮こゝる三位中将
ものゝ子ゝのこゝ我こゝこゝたこゝぬ時るのおこゝ

みちとせのはるのはじめにうぐひすのなきそめてさわらびのもえいでまつのおもかげにほふさくらのはなをまちてさくらのはなをまちてうたねのこころいのこゝろ

おくゝゝぬしたちにつかへてもとゝ桜人のゝらまゝにそ我ゝゝの事をたるこゝろをゝゆあゝく

をくるまのをいゝゝ後の女房

春日のゝゝゝぬさゝのしゝれもちとく神のゝをまのさらん

ものゝ思ふこゝろ月のゝをふかゝゝゝゝくゝ

くゝゝとゝんく　あゝきゝくるゝゝ深夫物ゝゝ君

ゝくゝめよ詠る月もゝくゝゝゝ時月にぬゝゝ神のなゝ

三つのむゝる女のもゝにまかりとく書ふてゝゝを侍る

道よ月とゝゝ　ゝゝゝのたゝ段大臣

かゝゝゝゝ寄のやゝゝも寄ゝゝゝゝゝのせゝゝもゝる月ふ

たゝゝゝみふせよすゝ侍る冬のゝゝ侍ゝゝ

ゝる　ゝゝをゝの物中納ゝ

ゝゝゝゝゝゝ称のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝのすゝみゝのをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ風のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝの侍従女ゝゝ女

国譲下　物語

[illegible]

物語二上

[illegible]

百番哥合三番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾百哥合四十二番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

総角

拾百番合九十六番

あづまの方にすみける人の女のもとにつかはしける

女のもとにしてをくりける一本

しらなみの中将たゞもり

さよふけてうゑまさりたるこゝろをいかなるくものやうにか

はらひけるまろ水るゝとあるをよみて

まさもむしの指井納言

かくてこの神ぢ水るゝのよ所のゝ称をとりてふやう安

うもむるこゝ有くあむ侍さうろる女のもとに

あくて池のみるのつゝひをふまをうゝやま

くゝんく　おやこの中乃内大臣

水のうへにおもてをうるゝ中ふもつゝひをるれくあんれ地ハ

池よ水島とものあるをを御覧しもくもくやま

うゝくゝむほくたほ中ちまくれて

うたねのこゝろの御方

ものうへかものうへ式とくくく

物語二下
百番哥合七十六番

ふるさとハうらむるもをみのよにつまぬをのうらねもうも
女のもとにまうさるとてふるさとハいかゝ
をしのおくにかゝる

たゝきとの梅をたゝ物ゝ

あるともふさ称うちふくをよもさゆるをよりたくへまくら
あむらくハ侍るる女のもとにまうさるとて侍るるゝ
はるをしをる　ふるさとのさくらまのうみ
をのよもあるもぬにのむら称ハとをの雪にいのふをよそ
四季物語のなゝる

ふほのうらみ

ふるさとるふるのうらすの後つるひるへ定めぬ葬ゝ
かもの沖文
人めるるつゝのゝのうゝ秋ふゝくるもみ乃うへのゝ
女とおやのゝうゝ先ゝ侍るにものむゝまるゝ
なゝうゝおけよあゝて

さゝとけ　あゝの雪白

いるをもむゝうゝるみのゝるるもゝ社のつゝ
をんゝよつゝをゝ

ゆゝうけ二のゝて

おゝはる後ハ神ゝ社ゝ社つゝゝ称ゝゝよひのまゝなゝ

[illegible]

朝貞

[illegible]

八条院の御のうちにて月の明かるく

和歌なとまてまつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

須中将

[illegible]

たいしん　[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほむ舟もえすさやゝぬる

さゝろものゝこゝとの所ゝ

物語二下　小物語　さす　四上

つゝゝゝゝゝ氷のゝゝゝゝゝ

[illegible]

総角

[illegible]

八物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二本

[illegible]

[illegible]

於

拾百哥合九十六番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月廿七日　めもあきぬの右大臣

山ぶきのはなをゝしみあるあしたはやうてをきてあるをぶ
ようをしみ山ぶきのはなをゝしみあるこゝろをのあるたゝ
ぶきて　濱松中納言

物語四　そこもとの物語
あかつぬめをとよりをの山ぶきをゝしみ人めやたえんとをもん
をしみをもみ侍るへ人ぶきをゝしみ
同上
をもへかつをもへやをもふをもめやよ山ぶきのをのふをを
大納言をもふの廿九日の屏風ぶ山ぶきをゝ
ふれるをあるに　よみ人しらず

落久保物語三
をのをのをのを

よしのゝ山ゝ雪のふる日よりをゝ[illegible]

ゝ[illegible]の女院

ふるさとゝなるゝあはれにまし[illegible]もゝ[illegible]

おなし山ゝすゝてこゝにんほそのゝとくるふよめる

ゝ[illegible]つの院宮

物語四

ゝ[illegible]の[illegible]ふもゝ[illegible]ぬゝ[illegible]の山とくゝ[illegible]

拾百貫合三十五番

女のゆくゝ[illegible]ゝ[illegible]ふるゝ[illegible]

日[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

かゝ[illegible]

[illegible]ぬゝ[illegible]

見ゝ[illegible]

四季のゝ[illegible]

ゆゝ[illegible]の[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

なゝ[illegible]ゝ[illegible]

つゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この御所とうんくもをゆらんやゝ御ものがたりのうまつりをうけたまはりとゝのへもてゝ仕まつらめ

新大納言

むかしをしほの山のゆきまてはいかにもかはらぬ色なるを

六条院大臣ふものゝ給へるをきゝおほせられけるのゝ御事まつのうまつりをうけたまはりとゝのへもてゝ仕まつらんとのゝ給へるをきゝ有りけるものゝいみのようをとゝせ給へるをきゝも侍らさりけるふるさとゝ一えをまもりて

冷泉院御所

行幸

百番哥合九十九番

をしほの山をしほの山よりのふるさとゝ法をもとゝ八弱よ

同上

御所の歌　六条院御所

をしほの山をしほの山もかはらぬ松ゆゑよりかゝる跡やかうん

をのゝちよのをとる大和まてをきて三月つゝ乃

うつりをとゝとつのをとゝはゆるをとゝ侍りけ八

うちのまねさみ

推本

百番哥合七十八番

をしほの山のゆきをゝ又ふるをとゝ改をとゝぬの哥

まゝるをとゝをとゝはゆるをとゝ人ををとゝ侍りて

えもいはをとゝ哥をとゝ仕の枝を侍りて侍

ををとゝる　さ夜の侍一条院御所

物語二下　三百

をのめていとゝくやうん仕のをふるの哥をのをえをとゝて

百番哥合九十七番

同上
同晋舍井八番

清のへ　菊池

まのよもちかまたのもんん井のまくらかるこのこのこのもんん百

たちかなへに侍るこころつ屏に白たのもてまく

こてこのはのつこるあつこのもとにいこあひて

こを侍る　かやこもこしの宮雑後女御

ここそ人者のこつるるをのここそつこもふるこ也つこ

かこ

なこもこれこえはるここ者ねふここふこと侍いに侍ん

ふここふ侍る女のもとにこのまるはつこ侍る

まここに風の字相中将

ここむ　やこ呂ひここやこ也こ侍ここ今のほこのこ本ノこのこ侍こ

佛名ふここここここここここここここここここここここここここここここ

ひこ寺師のここつここ乃法いここよこまこを侍こる

六条沈市家

幻

春ここのいのこもこここここの用よこここ梅ここここここここここ

沈の屏　沈寺師

同上

子安のここここここここここここここここここここここここここここここ

ここの沈のこここいのここの沈賀の屏風よ仏名

ここる仏　女天相家の本ここ

菊宴

かこここここここここここここここここここここここここここここここ

ごーのくをよめる

ひの名をたてるの后文字相

やまとことばとしの数とにむかのいろはをかさ

神祇

ちはやぶるかみのいがきにかけぬるは

こゑをたてよのおのしひのこゑ　中臣の御祓をおほむかしつよふのくおほはらへ　大神宮を拝しまつりてよめる　やすらゐる我をくるしからしたる謀をかみの本

御夢のうちの御託宣とのもしくおほしめさせたれハ冥加春のあきまつよ侍るとき勅使よりくだりてをを拝るふるまくをうつ

のかゝ侍るそよく宮もゆめよりさめさせまゐ
らるゝまむ
やそしまこめもくたるのちくさ物ゝすること
侍るくかをてもらよおゝ法るる
いそしつのつのみ

物語下

ゆくゝのゝ大の武そる石しつなる仏ゆゝせのもろくゝ乳る
ゝそてんよるをけゝゝゝるよく御る

同上

美ゝもわ拾ひおゝる物おもゝ思ひよ身をやゝゝさん

物語二下

神せう三の月ゝ　その物語　ゝゝ武武ゝるふ注をる
ゝ思ゝゝるもの源氏文内ゝゝまつむ

ゝるゝ侍るふ堀川院の宮ふかる成ゝるとて
ゝつゝるゝ

人宮ゝ思ゝ三あゝ武武ゝんといて思ゝるん
ゝ思ゝゝゝゝ院の内大臣ゝ院のゝゝち
ゝゝよもゝ礼文を孫ゝる侍ゝのふ
ゝゝゝゝゝんゝるゝゝ寿ゝるよかる成ゝ
ゝゝゝ武よゝるゝゝかれゝるゝん
ゝゝなる松ゝ武のゝふゝゝ四月のゝゝ思ゝ入ゝて
ゝ思ゝゝの思ゝのゝゝおゝゝみなゝゝ武
んゝゝゝんゝゝゝ宰相のゝゝゝまう

物語

あさましくてこそこんこの世はの世も思ひ合はるる事や侍らん

大きなる風ふきまよひ雲の中より虎の牙の如くなる

さむらひ数多出来て宇治入道殿白かしらにまゐりて

侍りけるを見給へいとけうとくさもあるる

人の侍りけるとなむ

物語中

なのこのほうしもさこそんさきもりの兵人よりこの三人を

こそとまつの文の安大兵宇相ちちて出庵

のそ人侍のひまつつく侍る時いとおろかく

世のこれいそこそ我なのおかやてのいとく

ふまりちく我の神仏と参りこそ

馬にまてのそこそかきぬ人九人いそこ

くもつのよ申このひくこそぶくもつめ侍よ

たまふ家と初中くるあのつこそふうちに移ふ

申るゆめよふちのをと移ひくこのまをを

くるこもん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我ゐるふねまつる神のおうをうしてやそよ松まつほし
やそしまつてよみ侍る
そそのぬまの古戸
ちひおきて神のうとたのむ人の人よまつぬ身ふれて
女一宮高倉のゐるもそそちひやちん
とおそそくよまを拾へる
秋の夜のとつふるむかの侍
ゆふのそそちひやちんとて人神のいそよちめゆむつも
かう歳の侍くまくこむくよちまを拾へ
さそそ夢のそそてをつる人ちてとけるませ

ゐる侍の歌　おなし赤侍の母后の宮
かそるちよさそ夢そて祈てやそのそ拾ちるちん
侍也おなしうきを拾へ歳ふまくく
そを拾へよまを拾へる
風よそちそよの侍
くそて祈てかつるゆそそ侍の世の侍神まのをい
かものつそちゆそる侍そうゐるそそ侍乃
さうそよ力侍まくちそもそのよ世そ人
よそうそ侍ゐまて
そそ侍のの高倉中納言

さくらさくはるもそのかひもなくちるはなをみるにつけてもいとゞあはれなるとしこそのはるのはつかのころ

物語三下

かくてのちはもとのゐんにまかりてゐたまへるに

ところもの高陽女別當

六条院すきふうつろひたまへるころ御せうとの

ふまうにて侍りける御ともにまかりあかれのもの

ものゝやうとこの世とはおぼえず高陽乃御

意いまはのはすゑのしんかくはうまれつきて

こゝろにくからぬもののうちとおぼえたまへる

こゝろばえなる

源氏の御つかへ

須广

百番哥合八十七番

ゆくすゑまでのわかれにおもひいでらるべきこと

ゆゑ神よまもりたまへ

六条院御方

同上

同哥合四十五番

うきよをばとてとゝのをとこまうしの君をこの神まもれ

ゆくすゑのことのはもうちよまもるゆゑ

けるものそうよかとのうつうふさくまわに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

若菜下　のえ物語

すみよしの松よりみてをくおもふ神のうくるゆえうるも
[illegible]

冷標

拾百哥合六十三番

すみよしの神をうるおもふ[illegible]

[illegible]

てよみ侍る　こいまみの女大夫

[illegible]

みのはてる月の中納言のことを[illegible]

[illegible]

住吉の神もこゝろ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕霧のたのおほいまうちぎ

少女

あめよりもふかくやさしきをとめごの　をとめをとりてなにかはつらん

拾百番哥合四十一番

ひさしき再度女御みこのむかしをもはりてをる。湿明後

のちのちに殘りとて内侍所のおほとのもりの母

ともおなじうして　女ちゝみのたゆ持

神もこよかるおもひをもむきはるる年ぞ　の我くのそ

すまふかくやしのぶいきちよりてきこゆるこゝろ

日御ちくとせのこゝろ

八重流御所

須戸

やほのうら川神も長くしたつんおをるつゝのそれぞかれハ

百番哥合八十八番

高流のこゝろさの日ちくに侍りまつるをきゝを

侍りいとのうちにも拾おきうおかれく

さゝろものこゝかの御ぶ

物語三下

こゝろこゝするやそ方よの神もきゝもこゝわ逢ら思ひそめて

百番哥合八十八番

きちくよおちくまりくるこゝ御ぶ家おほしめ

こゝを侍ひるとかる歳の大明神堀の流よつけ

ぶえのこゝあつく御ほいもとこゝをたまちく

こゝろよくさまく出のこゝ侍ちる殘きこの世

侍く御んのうちよ

物語四上

神も拾もとのん殘うつゝみよこの世のこゝろ思こゝさちん

釋教

むすんでとくとくの契よろこぶもむなしき世をのがれつ
こそとてあまのうるもの指大納言殿にて侍りて
まつをよこのつきかたぶくやあるてもかなる事か
いぬふをきてうるもしきそのさしいて
ゆくるもん
こるるくるやふてはもやるの月とをよ泳めよ
ちれちよくくるたたにものもかる女の居
まちぬ侍よかる我しておきくるこころの事
ふ石山ようして書数のうるかきつくうかる

述懐

かくもくすむこころかくめつるをよ山のまに月
ゆもとふ山の秋者こころしの内大臣乃
ゆめよ侍るもん
まてもこしこしほの時のまに我ふ山おくに侍の恨ん
こまたちまよのの中の君おくへもいとろく
ままてくあのゆくへ行るよあ秋のこころ
ふくおくもるもこ侍る我ゆめ石山子
ようとおくるもろこのこのもん
秋ふむこつのふまれよろんこよみ侍る南

この夢の中よりもん

かなしきもんはとうみよ堤本もさきまも有ときて
こまたちらいをしぬの内大臣の中みの行
へちぬさまになるひ形中ねもせよこ
まるとかしと侍るころをみよこもつてこの
さしこんうる本もと侍る歌をこうる
むさむむる歌いのこしうもれさいをに
くちく祈さんこのまめやとるくいさこのまと
ろこて侍るよいのてら乃師の大とく行
おほきこう中侍るなみく

きの分や夢斗ちるあふこにもきこうれくとうこきこうもん
こまおてきぬる夢の大ねいをちよおりくこと
侍こ侍海よおもこきおこむ侍るふ夢
うてもにきこうきこうこ侍こ侍るこ
なむ
ちまこきをきもこめ妹を川絵よまよちうれあいむん
大まちるとの侍ふいをこのりくちぬこ
こ歌なのこくくまふこ中をたこたる夢
ふこ侍るこもん
こころろくこんあこきこ侍るころほこしの女の

てをらくく俗るふ仏のはすふやうよくこゝふ
いへいを俗る　かるをこめたたる
まもこすてあまつて残るはてを一法もを俗る
八月十四日拾てをき俗る
　　雪のうちの乃むーを
いこて拾ての山ふすむ月とはのこるそうさをもうん
　　うの月ー　　こ先法の女市
ををこうこうこのををこいつ天うんの月八すむてを
ちこうんのこめふ普賢菩薩つをあをもこて
まつをこをこおこるひ俗る拾あのつきこうこの月

くををうさこ入く市のこちつもいこうこ一月えを
拾ひ俗をを　　風ふをなこの実白
ちのひあふいるを実をちこつまをまん言と四さらあや
きこうこ門よいもを拾ひ俗るをむ拾のここふたて
まつをぬこいふ実このひくかをまをこをを拾
く沈の市車ふをこまつをこく
　　ちまかをの女沈
芦のうちにさつとこここ一むねのこのちひこふぬ財をぬる
おなーこうこうこうこうこちつをのをふさまふ俗を
俗をこて　　を俗ふ一るひ市拾

あふこと[illegible]なるまもなさとこたるおもひくらべ
すめのものくるもの中ふ方便品第八人敬礼人乃
至以一華供養於画像猶是菩提佛
のたねとなるべしこの一ふくふかものたとえる者をもちる
人記品
うれしてふくさ山人のうもれなまもとしこの花よるふ
親持品
くるまはこたへてくさもぬよちかゆき人のうらみのふちる
神力品
いしおくしこのものを残さしもくなるべし改のくるこまもとよ

院のふくん御経ちやうもんしく侍るよつ
くのこふまふこふ人の中侍るとて
おまのもとしの池彩中拾
水のあるのうそもるこ世中我いとことるはそれよ
ちアのくこのもそふさまるく拾もんそて
ちこのめゆふの冷泉院女一宮
源のこくるる袖よかくこまるものうこの玉やかこむ
女院の御こふたちのこあるまるく侍るる中
いのうこの侍の第人有病治之是經とりふ口ま
そうむとやく　いそて志の二条院内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さこの流の井戸の清さとうく堂屋乃

うくるかくしきんとく

やうちをれの一舞に

おかよのつくもたてやつをれなんともまつくき袋くちたる

大信寺が持るさふくしるるまあくきるるき

くさくいてさを移しくる

あまのもしほひの宮たち居文

むちしつる事ろうとかくふくちつまん海の世をふもとく

事いしく　三孫の宮居文

幾文のゆさてハのつるむつのそくるこふぬをあくをを

しひうちゆるる女の佛事くるふさけもの

てくしてはそくゆうて

さうの二乃こと

せくくぬちひのふくこと地ともしくやくるる雪まて

おつ屋　中務つのみとのむもめ

ふくちあくこ沢のたちすのふなをハけ世の雪すをめなるく

おくなしたくゆくるをさちくくゆくすをふの

こくこ我ちくちりくるくよ

ちくくるこ海浜泉流の宮青

[illegible]

おこなひすてゝ移ふると人のゝゝ心をよめる　うゝねのうゝの尼

うゝねぬゝ雲の我方と思ふてもたゝひのよるおやとそ思ふ

しのむゝ物ゝくる女の名なりゝつゝふゝさゝ

ゝふゝゝゝゝとのゝゝおこなひゝゝ思つゝ

侍ゝる　かゝ移ゝめるゝのゝゝ

うゝつむ波のゝゝゝゝ

物語三下

物語

風葉和歌集卷第八

離別

中納言のぶたかの家の歌合に

ものをのみ思ひくらすと言はるるこころぞくるしきものなりける

源氏のさきのさきのみかど

松風

ひさしくとはぬ人のもとへまかりけるに

おもひ出でもなかりしものを思ひ出でてとはるるこころぞくるしきはなりける

あつまの人

薄雲

まことにはこころをのこしけるにつけてかくこころぐるしくなりぬるものをとてやすらひてあるまへにて

伊勢

ゆくすゑはいかにとばかりなげきこそ

よをへだてたるこころぐるしさ

物語四

ちぎりきとかつはたのみにしかれども

とはるるこころぐるしさをいかにせん

物語に

ものをのみ思ひくらすとはるるもとはれぬにまさるこころぐるしさ

須ナ

ものをのみ思ひくらすとはるるもとはれぬにまさるこころぐるしさ

拾百哥合八十六番

むさしさぶらひ

同上

わの国にてもかくこそまるはだかとみてもをしとめ国

そのあつまさまなるさく

六条院御事

同上

いけるものとしをたてて命をとくなをかうるこそ

ひのくに

むさしのくに

同上

をしからぬいのちをくるめまくのをとをいとめてのを

百番哥合四十六番

中納言かろくへとひとちに俗をいまさこそ

くるふ月いとあつまさまて

さまの和の系文

いのまさにて後ふとをこそ思へ出人のよかくこそ月球人法も

清の国

ちつのこのさのかをとひいて我もいとも月をくるつく

系後ちちて世庚のそくに法のひるくこと侍

くるよちくこくつくまつのをよこまのとこの

よみ俗くる

まつのこやのあくのめこ

物語上

くふうや月日のつるをちくふこまつのこのよつこ

同一きこむかの字相よーのむこ法くこ言る

かむなくこ

同上

ちくこのちくのあをまふたくくやるくもちよこのつくこみよ

ゆつらふ月るとて道よりの女のもとよりつの川
月る　　ままこいの中納言
かさ縫ひんことてくやとかく衣袖のぬるつまと旅ひ
うへ　　山の僧正の母
うく衣ちちもむし侍て我のこころむる袖もちち果ぬつき
すまひの君ときて侍ちよりつるとくこむて
ちちの中将のもふまつるとよめる
すまひの法師のすき
数なるぬ身こそゆくもちてうぬんをそよたちもとぬ
かる　　右中将

ちるもんいとぬ扇ちにハ打なもけてこむしのるとき
あるむしも又のるつきよりちよりて
敬そまちこん秋の宮まてもおそつのむて侍ちるつき
この歌　　法理亮
中ふ敬の月をこそあてハんつちよりれてなのんむ
石山よいもむとく侍るあつき女
ふしをのの左中将
そこむと見ふ扇ちにハこあてそいのるあの侍ちの月
あへ　　八之一品文中納言
うつきむ花ともちにちこそハ代あつきやはるつき

もろこしよりかへりてのち伊勢ものがたりの人とも
おくりのまねとてうみつらゆきのこと
てよめる　はまつの中納言

物語二
おきのよのうらの秋風ふきにけりなにはの江にてふる雨
の音　もろこしの宰相

同上
拾百哥合三十三番
あまつかぜ雲のかよひぢふきとぢよをとめの姿しばしとゞめん
あはれのこゝろをはらしおきてかへりのぼるとき
よみてわかれる　まつの宰の大将みち

物語上
たつたやまこのしたかぜにもみぢ葉のにしきをなにぞ
の神のまつり　あはれのこゝろ

同上
いのちのうちよりのゆめのむらさきのいろにはあらぬ地にぞ
ふりける　まつの宰の石
物語下
秋をのみすむとおもへばかくばかりあはれまさるは
の音　こ一本
同上
ゆく舟のあとにたちかへる秋の風ふきてたちぬるかたをよ
はらしてよるべくよりてをのをとをきゝ
おちたかの中将
物語下
ちりぬるもちりはてゝのちはなを枝にとゞまるあはれ
かな　ゝゝ一本
大納言ゆきのいへの宴

同上

身をうらくやうるはしるはゆもとるもとさまは
ゆきとうよくまはてうくとうあうしうあうしうく
さの弱日ひよりうわ伝をもてよるる

中納言

吹上ノ上

うくしぬなつるもるるもやをくの万れゆらを
高ををうくるひめとうくめくよるをるひ
くる　ひるうくのみうくの清水
おてふはくのをくもうてをまくをうくゆとやをふてう
くやつへるをうち伝くるよわ孫のふるちうて
くもわうく伝くくをて

拾百哥合九十五番

ちをうくの春の中納言典侍

つちくるちよくるもあくてうれぬるひくれうくみるるくう
母御息所のすく伝くるはをほくうくうくく伝くて
たのふくさの光帝姫宮
なくく人のうくみくくる高をうく文うれぬるくるるくう
をくくのくのくれるくるふ伝くをくれよつくる
くくかの弦くくのいもくくちる人よ
ゆめちよるくよ大納言女
りちをうよたちのるるを方ちくをハうれもくハうをくくまは
うの屏　冥官のむすめ

ちゝをもてすもつきねとそうねるとの名ハかゝはもおもんた大ねまのうらにたもとをゝるゝ伝ゝるゝうまわゝかつるゝてよめる　女すゝこの中文拾九首

天をおきてかつぬきしの空ゝよ雲ゝるゝ神のゝ人ふんほゝておゝゝるゝうすゝつゝゝぬつゝゝ人

子

ふゝきゝ川の人ゝ一ふゝ文中納言

風をまつ雲のゝのちゝゝゝらぬゝゝかゝ神のゝゝれなわゝも

ゝゝゝもおゝまゝゝゝるゝほゝちゝなゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ　風ゝゝゝゝゝゝの虎中文

物語

かゝゝ神ゝゝゝゝゝゝ

つまもちのわたる女のはたらしへとるわたるふこと称し
くかまとしのうをつかわくあるとをつのこの言
をとこのうちうあくをとつのそんとく
いとやの尤名集
かまとしもいるいもひとくて我ハとうとたちおくれぬる
のねのとわくくみちのうへくわくくのかつとる
をとこのうちある女よりうみしぬの衣の裏
をこのつかいとうもをとうあるのぬまくいそゆまし
天の近あるくのうと伝るようとよ弟しの
くすりたてまつるとく

物語

くハくくあまのを衣とるとをとを天と衣とをハもいるる
清のうを
同上
あつをの源ようとよ我ハをふぬくをあもちをうハをあ
くくあしのうをあもこのはくとくくく

うへ　　掛おほ大納言女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よみひとしらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾百哥合八十九番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きさあてよわうくんと侍るふこやこちの
ふくとやうく　うつふの太夫仲教

吹上ノ上

あるまおもきさとしこえ歌るこゝをとるゝを百安なよ
ゝ和歌侍るゝさゝつまのゝうつまれる
ていのゝふくゝいよはるゝみやこるとゝてよ
ゝ侍る　あさふこの中原白

一本菊物語中

歌るゑつきゝの名よあまをはのふるはのたゝつてもむ
ゝうつよもおゝふるんをゝふゝをゝさすゝ侍る
ゝ神ケのなゝ歌ゝゝ

ゝもやの原白少方

ゝの孫よゝをゝゝまゝて猿の宮ゝあゝの猿ゝをよ
ゝゝのえよ侍るゝ原白よいゝおゝゝ歌
よのゝゝゝふ雲のゝえまゝう杉の朱ゝ
ゝゝよゝえゝ孔ハゝゝゝの原白少方
ゝゝゝくゝのゝ雲打侍のえの杉の梢のゝしぬゝふ
ゝまゝうあゝようゝゝゝやゝゝくゝやゝゝ人
ふはゝゝを猿ハ侍る

六条院御うゝ

明石

拾百番合三十一番

ゝゝゝよも思ハやゝふゝゝはしゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝかゝゝゝ侍る女のゝゝよゝゝゝゝゝゝ侍

[illegible]かの女のもとにつかはしける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物語一
拾百番合九一番

月の秋のこゝろまつゝ秋ことゝ我と思ひ

物語於百

[illegible]

物語一

[illegible]

物語

[illegible]

物語中

[illegible]

[illegible]

風葉和歌集巻九

哀傷

ちるみこの思ひおもほしなるふ年もたちぬるかぬ侍よりなほ　いまてしの人の宣旨

いのちもたえてもとのくるるんワれいこ月日ふるこ

おもひこころをなぐさめかねて侍る

冨士

あくまるもちよはなくてもすこ海の神よ冨のやそ山

母のおもひよ侍りなるこころ梅壺のこゝもいの

おりしろさとんこよめる

ちもなきみの枝もこえぬ心ちこ人をこそおもふまゝや

冨士中文のまゝおくこ山ちおくこ侍る法

梅のこゝよはなくこさいおこをなる

やまもとこの宣旨度お前に

おくれてこる人のこゝやとるんこを物こ山ちこ

のもとの指夫仏ちこまかなてのちすこ侍り

なるやのさくこのいとおりろこ我こ

夕霧の尤のおくいまこち天

柏木

白氏物語

はすあれこうこぬこまこさ紅よりかこえれすやこの横も

やまひのはなこちころまこ流よひ春ちこ

のさうと御らんするも有流の御かへのとわお
ほめ出し給ふ上下のまを拾ふる
こゝろうつの春流御うゝ
万世とたのみてきゝ小家よりむこうまのえハうゝ孫
御うの毎　宮内卿
うゝ家のゑ小自ひもうゝねうゝくるむのまとなりぬる
さうの流のうまさとのうゝのちうゝいのうゝやうゝう
のおうゝまゝ所よ。簡脱文ヱニシ　みゝ侍るうゝるのうゝ乃む
さうわうるゝくようゝうゝぬと御らむむゝ
六条流御うゝ

幻
百番哥合六十三番
ゝゝハうゝゝあゝゝやうゝうゝるうゝ人のむうゝ侍むうゝのうゝ孫を
かうゝ木の梅ゝ酒ゝ当まうゝて侍ゆゝうゝの宮
のゝうゝさよむうゝよかうゝみうゝゝのうゝうゝる梢
をうゝ　源氏の殿仕太政大臣

樂
木のゝのうゝうゝよぬゝうゝさゝゝまゝ小家の衣ゝうゝるゝゝ
　　源梅大大臣

同上
うゝめゝや家の衣ゝゝゝゝゝ春ゝゝさゝゝよむめうゝ
さうの流うゝゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝの日
一うを仕ゝうゝ侍うゝゝ思ゝうゝうゝの申るう
流ようゝうゝ侍うゝる

かやうにさとりの拙き典侍

あるゝ世のうつゝあれとおもへはかのいさゝも哀なるらん

一条の大おとゝいまゝちゝうゝ侍るゝのうあ

やんまつ宮ゝしまのたゝ大臣のりゝ

つゝゝる　きゝねの入道たゝ大臣

神ゝいのにむるもあゝ夜さゝてもうる称とめつ

むゝさ米のゝ人うゝ侍るゝのちほゝゝゝのの

なゝゝゝとゝゝるゝ

六条院御所

幻

あゝさ人とゝのうるゝのむゝ見ゝめゝゝやうる心ゝゝ

女三宮のいゝよゝゝあゝ侍るゝほゝゝゝゝのあゝゝ

ゝるもゝゝゝゝゝて

あゝゝゝの三条院

附島ゝゝゝゝゝ

御法

百番哥合六十六番

技仕太政大臣

おきそふ　物語百

ちとせのはるをかぎりにぬきをかけ神よ君をそそをかるゝ

一条院のうきさををはつかるゝ冷泉院の一

品ゑこうしのつとくれハ

むもあるふの一条院女一宮

あるときやへのうちに清涼殿にまゐるをのたちハ

江嶺後女御ひとり侍るよ御ちもをい

あてをさすれる　神ぬしの女院

こまゝハをのあるてをきまとあるをふ宮の衣ちるふ

宮方ちるをるをはる女院まゐるてよみ侍

見えず

言葉　おなし　太政大臣

有しよのうちのもとをこゝろにやをくるも清ぬてを

九のおほいまうちゝ天皇まゐりて女のをつのよ

侍るを人のもとよあをちをはをくをもをくる

うつのきた大臣小方

志コリ

たゝのこやあをちををを

のつまをとる　女ぶつの先に帝御うく

はるかもおくるゝあるちかの宮のかの山ぬよふ

祝さめ乃つ屏風

まゝ祝ぶもそなさ而ゝもすゝ深さゝこゝまゝうゝれ

白川の院の宮居をのゝ宮さを行くの秋女院の

御うゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もゝの秋うゝんまほゝゝ

いゝゝゝゝの屏風

うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

八月十四日信濃中納言のもとよりおくられ侍る

一めぐりとなりて紫しぼり侍りしを

この夕とりの大和

かきつばたかるかもの杜のかぎりとてつゆ分ぬ月の影

宮仕のあぬるこのいみじきもとく侍るを月

くまなかりしるる秋よめる

この歌大和

徐角

おくれとて月とともにつゆはすむ雲さはぬ

しのぶくこのよい侍る女のもとにまゐるあと

まもなくつゆはらはむしのふきけれて

かく称せつめる三のこと

くゝ立よんくめとふ是よりとうるもむしのこゑ

女のもとに侍りて侍るこゝろをゆきあくに

のこゝもこゝろをいとこゝろ

ちの月のうしの歌アてのこと

おふ木枯もこゑ小むしのこゑおのよ侍の雲や出こと

中納言まゐるこゝ侍る法華を杜をこゑつる

小侍るこゝ　ちのこゝ侍の扇公

ゆくこゝろこゝのこゝ立こゝ杜こゝ侍る杜こゝ侍の数こゝ

十月ゝ日ゝ坊の市ゝぬこゝ侍るこゝ侍乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女の[illegible]

[illegible]

[illegible]

やまひおもくなりまさりてんとしたるころ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相壁

[illegible]

百番哥合四十四番

御[illegible]

[illegible]

女[illegible]

かさねかむ[illegible]

御[illegible]

[illegible]

中[illegible]

[illegible]

有[illegible]

[illegible]

御[illegible]

[illegible]

やまひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一のふるさの一系に

[illegible]

先帝の御ときのよろみ侍る

女さみの年ね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六条院御ときく

[illegible]

[illegible]

同上

百番哥合六十番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らくのちなるしのよまこ女三のこんをおもわ
ごとゆゑて
古人もいまもくふこ五おく拾ちくさらふ人皇の寄
世のさこえとさらくく一冊文のふてもさ侍て
よめる
見くもてこいのるる桜まくるめぬ衣ぬるもむる涙を
冷泉院のおほきたいのくをさをるく一冊文の
くろこきぬふ月をしくるぬくおるも空
えこひ毎ものこのきわみたるこをて
まもふあるふ一冊に

かこくくおつる涙のふち衣こる人をるこをこの月き
あふひのくへうれくのちみるめる浦を年れる
よはこくも四をさはてまこをふうを拾め拾
まもくおほこをこ

六条院御こ

奏
こさわあをこ八こすみ衣ぬをこ涙を袖をふちこ月る
おほこをさいめこやはこまるこるをこ入道宮の
のこやをおこまくるころ八の世間脱落アルシこのくれてのち
うをる大ねまくこをくくろこ几帳のすこを
もむくくくれてすこをめよやつこ袖をくむ

いとうとこのやうなる侍るふ

宇治のあ孫天

椎本

百番哥合八十九番

もろくる神とそ雪のやうに出て我名を文よおきて伝おきて

せちよ品しくる女のうとく侍るのちきとんの

きぬの侍るを頭痛とをんと侍るよ浪の

うわくるふやものつとふ残さく

ここ中の巻に

浪よりうものを包みつとうあやうく人ふこえぬそ

入を指改まわくるに指大納言のもふつ八

しくる

寝のやうに中お内侍

見ひやる神とよ思ふとぬやうとぬやうとぬ神とそ

紅のとうなるに中九日のうとく侍る

下うちうつまとのうとのうとの法くる

そうかの巻に小方

物語

このうと衣をとの山法を見つ思とうとく神よかるねよ

父のあ中ぬうとく侍とくくめる

小おうとくの家を度女帝

おうとぬうとの袂をうちうとうとうとぬうも指

巻のうとくとと侍くる一めくるとのをとうとふあよ

うとくとうとくとうとうる

六条院中将

幻

天くもる涙ハさはもあわれなる我ハ行のまてしらんん

ゆくへを問らん〳〵

院の御うた

同上

くらす我身もまよひぬとおもふ哉おくるゝ心ちの

しのゝめ内侍殿のいろゝ侍るをまてもぬさ侍てよめる　きつねのもりの大政大臣

かきわけあれハ山とはなてしらるれ我身ハ深るそハかりし

中務のゝ宮まるゝのちむかしをのもつゝ

さ屋の左中将

いふ〳〵ゝ天とゝ侍ゝ長ゝ月ゝ我ゝ人のゝ身ゝてゝ

前斎院のいろゝ侍るを見てゝ

ふゝしのゝ中ゝ月ゝれハ中ゝゝを侍る

いとゝしの二の年に

いまゝるゝ身のゝゝゝつゝゝやゝゝゝの長とゝふもゝ宮ゝ侍る

父の左のおとゝいまゝゝ天ゝゝゝゝゝゝなりて

ゝゝのゝゝゝゝゝゝあゝゝれゝもの孫をぬゝ

しゝゝゝ侍ゝゝゝゝゝのゝゝおとゝむゝ孫ゝ

を侍ゝゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゝの宮賀茂女御

国讃上

[illegible]（あるしの心ばえをいとこゝろゆかん物語）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤末葉

[illegible]（八物語）

[illegible]（円上）

[illegible]

東屋

[illegible]（九物語）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]（よ一末）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

忠コソ

年ふれとつきもせぬくらゐとそをしらるるまも祈うける

風葉和歌集巻第十

賀

今上一宮うまれたまへるを祝ひまゐらせるとて

ちとせの御そてししくもさえ侍る

おやこの中の春を女御

亀山の岩根の小松おひそむくらしたそ世の初めなる

いのこやのうまの祝ひもけふ

うちかの古大臣おもて

蔵冠上

ちとせのおひる中よ二葉より万代ゆるやかのひめ松

ちとせのちとせのいのまのもとに侍る松よりまを祝

くる　　むちぬいまの米花流清水

天母のまつせのもとめて行よてさるのよたつのまんとはん

皇后宮うまれる二月けるに七月よ女流よりもとの乃

きぬのよむすんつくちのつさ鶴の毛衣より

うとさるのなまむほ紙ちもむと侍つる清

うの屏　　主家のおの屏毎

はちちくさるのちまむ鶴のこの毛の衣もこのきうん

宮流入道屏にむちちの笑しのひく

風の吹きおさの女流

天母を行万世いのるあるんるさのきわしるとん

大納言まつよりの七月のはるのうく

よみひとらひ　おちく和

物語　やうさ紙をえよとさるる杖あれつきをのれくるるはむ

ちこのいの松のひよおくまくはくるよみて侍

くる　　四条の宮の歌

六くおんのまるまの松をたのよくを毛の松のひよれむ侍ん

侍流のめ乃と

くるのちいのよむちをたのしとる松のいの松よむそんとはん

さみ流のきさいのまの二月の宮のおよ松よ女

一のさくやまつるひくるふ清のさ小松の枝小

[illegible]　つぼのさきの内侍のすみ

菊宴

おのれらとそこひとてきおきつの神ひの松のかげよりくる

いぬこやのもいらおねまあわ[illegible]侍るつることも

あちらの女御よつまをしたく

おなじ　仁寿殿女御

蔵冠下

方丈のゆくもちらおいつる小松よりふる神ひしすな

物語

六条院よりちよみちるよりをさちるまもか

る円上

とくつるかてまつるてよみ侍る

若菜上

中まつの当侍

つのそさいの人の小松をつまもとの君ねとつるふる

[illegible]

同上

小まつ原するのよりひろれやの人の君ねとつむ

おほきおいまちさきのむすめのつやまの

つくる侍るまさつさの侍るよ

ごうとくまやの年初

二条院うるせのくさの花さかるさかるつさやのひろ松

かすのうのあるのあるすきをたちぬ松いふ

こ[illegible]

うつの侍従を風

梅花笠

[illegible]人のよそいまの[illegible]のあるとやうの松ちとまつん

円上

六大松うまの侍るよちとのさぬつもさるて

ここさ系の二系文皇太后宮
かすう殿のうちの杉やちさるらんこねの新宮の式の光を
御この歌　二品文
桜おくこ移のおくこへの光こそ二系の杉の子安もてこさめ
宮仕へを寒にむすめるもにもこせ侍るこ
ゆきとおく　風よ吉ちさの宮流女御
いま玉鉾もあこ礼こかすう山杉よ系鉾いこへ侍る
ちこやこ中根のまこさ侍るこ杉よある
いこやの掛系太助こ
いこ系山まこう山杉の末のこへ人よかこえこ侍るかるん

ひのこ文　坊よさこゆこを侍このちうまし仕を侍
ひしよのこと思へいここ侍こよある
のちこゆる太和文御の子美
いこへおこしんもちここ侍の杉こここすこ思こ侍る式
中文のいうよこ侍る
むいこの　つ内大臣
こせへんここの杉のゆ末ここ侍このこへもうな
中納こすこ　のまこあこのふこ山のこめこて後
の宮の宮の宮　侍るよ後の宮こ侍こ杉のこ世
こ侍こ侍こ侍よある

吹上上

後の色かさとる玉鉾のうへつ方のよろしかるべき人のわかるる

素盞嗚尊

同上

まうるしく星をへて後の色のうれる杉の末のうれんむ

やまひ木はこころ法華経の中道をさとりをさとりを

ひろるよ代のむのまの後杉よりうへなつく

ちぬふてとれるよみ侍るよ

神ぬし代の源中納言

杉原も枝をかさぬやまれかれる後のけて枝をさく

うちのおく

うつのさとの紅葉

かるとうへをくこころをはかりのもとをうつる代のうちに法

華経をのこる後人ふかしかるもさ侍るる秋

さの侍さのついてふ

ひちぬいまのおこ三位左大臣

二条ふなるこころの杉とうしを枝とかくるとちかるる

六条院御元服のとうひさ宴のおとうよ侍

き事をまを侍御さうさの侍ってよ

さうさの院の御方

桐壺

いとさおとさうものよもさ世をなるんに杉ふをあつや

ううしの内大臣をさかく侍る後入道左大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹上下　十七物語

[illegible]

[illegible]

よ[illegible]

[illegible]

九月十三夜　人の所にまかりて

はつ[illegible]の左大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たたみ

[illegible]月[illegible]八[illegible]ふれもさやかなる[illegible]
みかの御いの乃日おほちおく[illegible]てまつるけ
るふ事[illegible]せなる

一ふ[illegible]のさ[illegible]の御ふ

[illegible]ぬ[illegible]の山のふ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]
冪[illegible]帷[illegible]納[illegible]ま[illegible]
[illegible]ぬのたもと[illegible]

あさ[illegible]の[illegible]たち官

[illegible]のすそ[illegible]ぬ[illegible]

御ふ[illegible]　[illegible]たち[illegible]

[illegible]帷[illegible]納[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の女

[illegible]世[illegible]
[illegible]の[illegible]

いら[illegible]の母

[illegible]
[illegible]の[illegible]の女一[illegible]

[illegible]

藤原君

[illegible]

同上

[illegible]

右大臣仲忠女　一条ゆきをまくこの[illegible]

[illegible]

朱雀院御所

田崎村鳥

[illegible]

[illegible]

同上

[illegible]

いぬのこやのこぬやなしいまこう孫のきこしめしよ

[illegible]

[illegible]

蔵冠上

むし鳥のつるのこるまつすむこしい杉の枝よりつたへる

おなしこゑやよとみ侍る

[illegible]

祭使

[illegible]

一条のいのさとにまるをけるを孫をを

後のめ[illegible]の御所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見系